

A's B と B of A の使い分け

— 動物 horse を例に —

白 谷 敦 彦*

0. 序

本論考は“the horse's foot”と“the foot of the horse”のような、“名詞's + 名詞(句)”と“名詞(句) of 名詞”の違いを取り扱う(前者をS表現、後者をOF表現と称する)。Horseにしたのはコーパス British National Corpus World Edition (以下 BNC と表記) の動物の用例の中で最も多かったからである。¹ 第1節では horse のデータを BNC からすべて抽出しどのように使われているか分類してフレーズレベルでS表現とOF表現の違いを探る。第2節ではS表現とOF表現の両方で共通して用いられていた単語を考察対象とし、使われ方の違いを談話レベルで探っていく。

1. S 表現と OF 表現の比較 (フレーズレベル)

この節ではS表現とOF表現をフレーズレベルで考察する。“the horse's + 名詞(句)”と“名詞(句) of the horse”をBNCで検索し、分類した。分類は例文をみていくうちに傾向があることに気づいたのでその傾向によって分類した。アルファベット順に示す。同じ例がある場合にはBNCには何例あるか括

* 福岡大学人文学部教授

弧を付して示す。また列挙されている場合（例えば the horse's back, neck, or chest, the horse's backside のような例）や形容詞が付いている場合（例えば the horse's great gobbling mouth のような例）は the horse's back や the horse's mouth の横に括弧の中に入れて配置する。

まず“the horse's + 名詞（句）”の例を挙げる。全部で 482 例ある。

[1] 馬の体の一部 (the horse's eye のように、名詞（句）が horse の体の一部になっている例である。) 130 例ある。

ankle (足首), back (16 例) (the horse's back, neck, or chest) (the horse's backside), belly (腹部) (3 例), blood, brain, coat (外皮、体毛), ears (2 例), eye, face (2 例), fetlocks (球節：ひづめの上の後部で、けづめ毛の生える部分), flank (脇腹) (5 例), figure (輪郭、姿、体形), foot (単数形 1 例、複数形 3 例), form (姿、体形) (2 例), gum (歯茎), hair (体毛) (2 例), forehand (馬体の前部：鞍より前の部分), head (13 例) (the horse's head and neck), heels, hide (皮膚), hindquarters (下半身), hoofs (ひづめ) (2 例) (複数形 hooves 5 例), knees, leg (複数形 3 例) (the horse's lower leg) (the horse's left foreleg) (the horse's off-foreleg), limbs (脚), mane (たてがみ), mouth (19 例) (the horse's great gobbling mouth), muzzle (鼻口部), neck (9 例), nose (3 例), nostrils (鼻孔) (2 例), neck muscles, ribs (あばら骨), rump (臀部), shoulder (2 例), spine (背骨), tail (3 例), teeth (2 例), throat, tissues (細胞組織), tongue, his nostrils, chin, and chest, withers (肩甲骨の間の部分) (2 例)

[2] 馬の動作や能力 (the horse's attention のように、馬の動作や能力を表す例) 18 例ある。

alarms, attention (3 例), mental attitude, frolics (ふざげ、たわむれ),

immobility (動かなくなること), neigh (いななき), sense of smell (臭覚) (the horse's hypersensitive power of smell) (the horse's keen sense of smell), signals, vocal sounds, the tone, note and delivery (音を発すること), steps, second trip (動き回ること), tolerance (忍耐力), triumph, win

[3] 馬の性質や属性 (the horse's temperament のように、馬の性質や属性を表す例) 12 例ある。

intensely social nature, body temperature (体温), temperament (気性) (5 例), genetic traits (遺伝上の特色、特徴), personality (the horse's mature personality), genetic programming (遺伝), bodyweight

[4] 馬が主語になっている (the horse's actions のように the horse acts と、horse を主語にして動詞で表現できるもの) 16 例ある。

actions, behaviour (3 例) (the horse's ordinary behaviour), other forms of communication, muscular control, own intrusion, jumping, performance, reactions (the horse's natural reaction) (the horse's natural reactions), nutrient requirements, response, chance of winning

[5] 馬が目的語になっている (the horse's prick のように a man pricks the horse と、horse を目的語にして言い換えられるもの) 1 例ある。

the horse's prick (馬に拍車をかけること)

[6] 馬とかかわる人間 (the horse's owner のように馬とかかわる人間を表す例) 7 例ある。

owner (the horse's joint owner), regular riders (騎手) (2 例), trainer (調教師) (2 例), previous leader

[7] 馬の健康 (the horse's condition のように馬の健康を表す例) 5 例ある。

condition, fitness, biological heritage, health, well-being

[8] 馬の所有物またはテリトリー内にあるもの (the horse's stable のように馬の所有物またはテリトリー内にあるもの) 13 例ある。

collar (首当て), curb chains (くつわ鎖: つなぎ止めておく鎖), feed (飼料), harness (馬具一式), wooden pad or saddle (あて物と鞍), pasture (放牧場) (2 例), reins (手綱) (3 例), saddle-cloth (鞍のあて布), stable (馬小屋), stall (牛房: 馬小屋の一仕切りの部屋)

[9] 馬が持つ精神的なもの ([3] (馬の性質や属性) と比べて一時的だと考えられるもの) 39 例ある。

anxiety (9 例) (the horse's anxiety and negative feelings), cheerfulness, confidence, curiosity, desire, ego, emotions, fear or anger (the horse's instinctive perpetual fear), instinct (the horse's herd instinct) (the horse's aggressive instinct), own interests, mind (6 例) (the horse's state of mind), mood, need (2 例) (the horse's other needs) (the horse's needs) (the horse's psychological needs), nerve, level of stimulation (興奮), tension (the horse's posture and muscle tension)

“名詞 (句) + of the horse” の例を挙げる。全部で 111 例ある。

[1] 馬の体の一部 (the eye of the horse のように、名詞 (句) が horse の体の一部になっている例) 14 例ある。

the blood plasma (血漿), the body, the coat (外皮、体毛), the eye, the figure, the foot (5 例), the forelegs (前脚), the heel, the hoof (ひづめ), the

upper jaw (上あご), the trachealis muscle (気管の筋肉), different parts, the medulla spinalis (脊髄), the tissues (体組織)

[2] 馬の動作や能力 (the ability of the horse のように馬の動作や能力を表すもの) 2 例ある。

the ability, the slow clop (立てる音)

[3] 馬の性質や属性 (the character of the horse のように馬の性質や属性を表すもの) 8 例ある。

an aspect (behavioural aspects), the expression and character, the ideal physical conformation (the outward conformation (形態、構造)), look, the name, the natural usefulness, the whole price, the full value

[4] 馬が主語になっている (the development of the horse のように the horse develops と、horse を主語にして動詞で書き換えられるもの) 9 例ある。

the suppleness and activity, the sour breath, the coming out, the death of the horse (2 例), the development, the general feeling, the true identity, an early knowledge, the neighing (いなくこと)

[5] 馬が目的語になっている (possession of the horse のように a man possesses the horse と、horse を目的語にして言い換えられるもの) 16 例ある。

a better appreciation, control (the rider's control), the domestication (飼いならすこと), our handling, the introduction, possession, purchase, riding, the sharing, the shoeing, the straining (ぬかるみにはまった馬を引き上げる), the study, understanding, the use

[6] 馬とかかわる人間 (the owner of the horse のように馬とかかわる人間を表す例) 24 例ある。

the owner (6 例), the master (18 例)

[7] 馬の健康 (the fitness of the horse のように馬の健康を表す例) 18 例ある。

the appearance and condition, the anatomy (3 例), the anatomy, physiology and pathology (解剖学、心理学、病理学), the physical condition, diseases (6 例), the fitness, the best health, the life, pathology and treatment, the stamina, the wounds

[8] 馬の所有物またはテリトリー内にあるもの (the saddle of the horse のように馬の所有物またはテリトリー内にあるものを表す例) 3 例ある。

the halter (端綱: 馬の頭部に装着する道具), the brown varnish of the horse (馬のからだに塗るもの), the saddle of the horse (鞍)

[9] 馬が持つ精神的なもの (the emotions of the horse のように馬が持つ精神的なものを表す例) 7 例ある。

the emotions (emotions) (the extreme emotions), the mind, the psychology (心理状態) (3 例)

その他の例を挙げる。

the history of the horse (4 例あり), the festival of the horse (2 例あり), the image of the horse (3 例あり) (the picture of the horse)

“the horse’s + 名詞 (句)” と “名詞 (句) of the horse” の分類を比較すると次のことが言えよう。改めて記すが、“the horse’s + 名詞 (句)” を S 表現、“名

詞 (句) of the horse” を OF 表現と称する。

[1] 馬の体の一部

S 表現は 130 例、OF 表現は 14 例で S 表現はありとあらゆるものがある。S 表現の全体数が OF 表現の約 5 倍であることを考慮しても (単純に $14 \times 5 = 70$ としても)、S 表現が数的にも圧倒的に多い。S 表現と OF 表現とで共通するものは coat, eye, figure, foot, heel(s), hoof(s) である。

[2] 馬の動作や能力

S 表現は 18、OF 表現は 2 である。

[3] 馬の性質や属性

S 表現は 12、OF 表現は 8。

[4] 馬が主語になっている

S 表現は 16、OF 表現は 9。

[5] 馬が目的語になっている

S 表現は 1、OF 表現は 16 で、S 表現が圧倒的に少ない。

[6] 馬とかかわる人間

S 表現は 7、OF 表現は 24 で、数的には OF 表現が多い。S 表現と OF 表現とで owner が共通して用いられている。

[7] 馬の健康

S 表現は 5、OF 表現は 18 で、数的には OF 表現が多い。

[8] 馬の所有物またはテリトリー内にあるもの

S 表現は 13、OF 表現は 3 である。

[9] 馬が持つ精神的なもの

S 表現は 39、OF 表現は 7。共通するのは emotions, mind である。

顕著な特徴が見られるのはカテゴリー 5 である。カテゴリーの 5 は S 表現が

極めて少ない。このことについて少し考えてみよう。5は他のものと比べると“s”という表現の特性である「所有」という意味がかなり薄れるものと言えよう。1、8、9はもちろん、3の性質・属性、7の健康は馬にとって自分の持つ特性といったものであるから、自分が持つもの、少なくとも自分の領域内にあるものである。2（動作・能力）、4（主語）は自分の力や自分の行動であるから、これも自分の領域内のものであろう。6は自分とかわる人間であるから、自分の領域に近いものである。これらに対して5の目的語は自分が他者からされることであるので、自分の意志とは全く関係のないところからの力の作用を受けることになるし、そうされることが嫌なこと不本意であることもあるであろう。従ってこれを所有という概念の中に入れることは難しい。このような理由から「所有」という意味から結構離れるため、S表現が極めて少ないと言えるのではなからうか。

2. S 表現と OF 表現の比較（談話レベル）

第1節で見た語の中にはS表現とOF表現とで共通する語があったが、この節ではそれを比較する。例えばthe coat of the horseというOF表現とthe horse's coatというS表現である。比較に当たって条件を可能な限り同じにする。形容詞が前に付いたり（例えばthe beautiful brown coat of the horseのような例）後続する関係節があったりするもの（例えばthe horse's coat that is beautifully brownのような例）は対象から外し、単純に名詞が使われているもので修飾部が前後にないものどうしを比較の対象として選んだ。修飾部の長さが使い分けに影響していることが考えられるからである。他にも共通語が書物のタイトルに使われていたり外来語の説明として用いられており談話に関係しないものがあつたりと比較に適さないものがあつたので除外した。では、まず馬のcoat, figure, foot, heel(s)について比較を行う。

2. 1. 比較 : the coat of the horse と the horse's coat

この節では the coat of the horse と the horse's coat を比較する。まずは前者の OF 表現である。先行談話と後続談話の両方を示す。引用が終わった後に括弧付けで示したアルファベットと数字は BNC の出典ファイル名である。

Refna Hamey is currently one of the hottest tips among artists of the racecourse; her commissioned paintings include Corbiere, Grittar and Celtic Shot. She paints mainly in acrylics, in a pointillist style with a sponge and also produces cont ... drawings on paper coloured to suit **the coat of the horse**. She tries to capture a horse's character, whether it is wild or thoroughbred. "I like to get pictures as if the horse is about to blink or breathe, the nostrils about to expand or contract, the legs about to break into a trot or canter." (A7D)

(大意 : Refna Hamey は競馬場をモチーフとする今超売れっ子の画家である。これまでに3頭の有名な馬を委託されて描いている。スポンジを使ってアクリルに点描してゆくスタイルをとることが多い。馬の毛並の色を出すために紙に書くこともある。馬の性格をとらえて描こうとする。野生かサラブレッドか、というように。彼女は言う。「瞬きする寸前や息を吸う寸前、鼻孔を広げる寸前、すぼめる寸前を描くのが身上よ。」)

画家の話である。馬を描いているということは先行文脈でわかっている。聞き手はこの一流の画家は馬をどのように描いているのかに関心を持って読み進めるであろう。どのような道具を使って描くかが説明されたあとで色使いの話になり、coat (馬の毛) という言葉が現れ coat の色に合った色を出すということが書かれている。色使いということから馬の毛に焦点を当てている。the coat of the horse という表現の前に来ている情報は道具→色 (coloure) →合

う (suit) → 毛 (coat)、とつながっており、horse よりも coat が重要な要素となっている。S 表現にすると coloured to suit the horse's coat となり、この順序、つながりが邪魔されてしまう。馬の話題であり、「馬の」(horse's) ということはわかっているので of the horse は必ずしも必要ではなく、最後に添えられているだけである。

では S 表現の用例を見よう。

If you are faced with a filthy horse on an equally filthy day, you can give him the equine equivalent of a bed bath. Damp a piece of towel or old fashioned sacking in warm water and rub it into **the horse's coat** in a circular motion, rinsing it in another bucket before repeating the process. (BPB)

(大意：体が土で汚れた馬を見たなら洗ってあげればよい。タオルや古着をお湯に浸して円を描くように馬の体毛に擦り付けるようにする。そして別のバケツのお湯を使ってすすぐ。この作業を繰り返すのだ。)

汚れた馬を洗ってあげるという文脈で用いられている。馬の体毛というよりも綺麗にしてあげるということで、馬の体毛に焦点を当てるのではなく馬自体のことを考えている。従って主体としての馬を示すため、coat よりも horse の方が大事な要素となっている。

2. 2. 比較：the figure of the horse と the horse's figure

この節では the figure of the horse と the horse's figure を比較する。まずは前者の OF 表現の用例である。Buckinghamshire の自然が描かれている。

Close by the Smithy you'll find the Vale of the White Horse. The Uffington

White Horse on Whitehorse Hill is the oldest hillside *figure* in the country. Tradition says it was cut by Alfred the Great to commemorate his victory over the Danes at Ashdown in the year 871AD. You can actually walk on the hill, though you should not walk on the horse itself. For a really good view of it you'll need to go a couple of miles to the north. Below **the figure of the horse** is Dragon Hill -- the site where St George slew and buried the dragon. (G2S)

(大意：the Smithy に近接した丘は the Vale of the White Horse と称される。この丘はここに古くから存在し、馬がいるように見え、その馬は the Uffington White Horse と呼ばれる。871 年のアルフレッド大王のデーン人への勝利を記念して馬の形に開墾されたという伝説が残っている。丘を歩くこともできるが、歩くものではない。歩けば馬の形がわからない。すばらしい馬の形を味わうには北へ数マイル行かなければならない。そしてこの馬の形をした丘の下方には Dragon Hill がある。セイント・ジョージが龍を退治して埋めたのがこの地である。)

1 行目で the Vale of the White Horse と名付けられた丘 (hill) の名前を出した後で、その丘が馬の姿のように見えるのでその名がついたことが説明される (筆者が施したイタリクス部分を参照されたい)。そして、伝承事項と説明 (眺めを楽しむために要する移動距離) がなされ、その土地の下方には Dragon Hill という名の丘があることが書かれる。後は Dragon Hill の説明となる。この例においては、馬の形をした土地ということで、馬ということよりも地形に重きがある。

では the horse's figure の例を見よう。出典ファイル J1K は Women's Art というタイトルが付けられた文書でアートに関するものである。画家 Susan Rothenburg が画廊に出展した一作品が批評される。

A current travelling retrospective which opened in her home town gallery and was organised by the gallery's chief curator, Michael Aupling, includes 80 works on paper and canvas, documenting the artist's process from sketch to oils over the past 18 years (1974 - 1992).

It was a crooked line on an unstretched piece of canvas, drawn, partially erased and then redrawn, which evolved for Rothenberg, into the silhouette of a horse, an encasement for human presence, a grid which would eventually be, in slaughterhouse terms, drawn and quartered. Later, in the metamorphosis of this equestrian form, Rothenberg reached into the psychological and physical construction of her charcoaled image and pulled out a single bone. This solitary bone, angularly placed in the foreground of her painting, cancels out **the horse's figure**. The icon serves as both fragment and entirety. (JK)

(大意：画家 Susan Rothenburg の故郷に開設され Michael Aupling が館長を務める画廊はレトロな雰囲気醸し出しており、彼女の作品 80 点が展示されている。下絵からどのように完成に至るかという解説も絵の近くに書かれている。そのうちの 1 作品ではキャンバスに曲線が描かれ、その一部は消され、またその上に曲線が描かれ馬のシルエットを形成している。後に彼女はこの絵に手を加え、馬の心理面と肉体面を引き出し、馬の 1 本の骨を強調して描いた。これが絵の前景であったために馬のシルエットが台無しになった。部分にも全体像にも影響したのである。)

1 本の骨の描写によりそれが馬全体に影響し馬としての絵画性が失われたので、文脈としては馬であるということが大事である。

2. 3. 比較 : the horse's foot と the foot of the horse

今度は先に S 表現 the horse's foot の例を見てみよう。競馬用の馬の訓練方法について書いてある記事である。Martin Pipe は調教師。馬が怪我をすることなく競争力を身につけるために薬や道具を積極的に用いようとする人物で、Bristol 大学も研究に力を貸している。

A key component of Bristol's research with Martin Pipe's horses is a device called a forceplate. It consists of a metal plate, securely bolted to a cubic metre of concrete buried below ground, which measures the forces on it very accurately. The forceplate is sensitive enough to pick up forces from the heartbeat of someone standing on it, and robust enough to measure up to five tons of horse trotting past. What you get from it is a graph showing a complex pattern of forces. The patterns reflect what is going on in **the horse's foot**, and especially in its tendons. If you record enough of them, from enough horses on enough occasions, you can start to ask interesting questions. What constitutes an average healthy pattern? How does the pattern change when the horse becomes injured? (H45)

(大意 : Martin Pipe の馬に関しての Bristol 大学の研究の主な物に forceplate という装置がある。金属のプレートを 1m³のコンクリートに留め地中に埋めたものである。上に乗ったものの力を正確に測ることができる。人間の心拍数も計測できる。疾走する馬も重量が 5 トンまでなら耐えうる。複雑な力のパターンもグラフに示すことができる。馬の足の内部に見られるパターンもわかる。特に腱の部分。様々なケースにおいて様々な馬のデータを録れば健康状態にあるパターンとそうでない状態 (例えば怪我をした場合) のパターンがわかるようになる。)

プレートに乗ったものならどんな力の作用もわかる（人間の心拍数も）と言っている。人間が言及されたので、話題が馬に戻され（horse trotting past の部分）、計測されたデータ（patterns）が馬の foot の状態を表すことが述べられる。Foot の後には especially in its tendons（特に腱の部分において）ということばがきており、さらに詳しい馬の部分言及されている。人間ではなく馬を計測すること（horse）→馬の中でも foot の状態を知ることができること→foot の中でも特に tendons（腱）という順序で焦点が当てられている。人間ではなく馬であるということを示すために先に horse's が来ているし、horse → foot → tendons という全体から部分へという焦点化も効果的である。Foot of the horse とすると foot → horse → tendons となってしまう、この効果は消失してしまう。

では the foot of the horse の例を見よう。大学に所属する獣医 Coleman の話である。引用部の前に獣医 Coleman は大学で馬の病気治療やリハビリを手掛けたということが語られている。

He [Coleman] lectured on the anatomy, physiology and pathology of the horse, and clearly took enormous pleasure in communicating knowledge. ... His lectures on the eye, the foetal circulation, and especially on the foot, would never, it was claimed, be forgotten by those who had the good fortune to hear him. He directed that the governors of the College should “apply the interest and proceeds thereof annually for ever in the purchase of a Medal to be given Annually to the author of the best dissertation on the Anatomy, Physiology, or Pathology of **the foot of the horse**, or the principles and practice of shoeing horses (B2W)

（大意：Coleman は馬の解剖学、生理学、病理学について講義した。講義内容は馬の目、胎児の循環器系、そして特に足についてのものだった。講義を聴い

たものなら忘れることができないほどのものであった。彼は大学当局に毎年次のような研究者には賞を授けるべきだと言った。馬の足の解剖学、生理学、病理学について優れた論文を書いた者、蹄鉄に関する理論の構築および実践について優れた論文を書いた者。)

Coleman は馬の中でも目、胎児の循環器系、そして特に脚に詳しくことが語られる。そして講義についての評判、研究者として後学を思う人となりか説明され、the foot of the horse ということばが現れ、蹄鉄に関する理論とその実践ということが後続する。特に foot (His lectures ... especially on the foot) についての講義が強調されているので、foot が大事な要素となっている。

別のファイルの the foot of the horse の例を見よう。

The love and affection which these ploughmen or horsemen had for their animals was quite extraordinary. They groomed them; they fed them; they looked after them in every way as a mother would look after her son. And I have seen them at the mid-day rest hour of twelve to one, I have seen a ploughman come into the stable, shake up the straw in the stall of his leading beast and lie down there and sleep. I've seen the man's face actually resting on **the foot of the horse** but never at any time the horse stand on him, tramp on him or damage him in any way. You'd think there'd be fear that the ploughman would suffer damage among the horse's hoofs, but such was the bond between them that nothing of the kind ever happened. (G09)

(大意：農夫や馬産家の馬に対する愛情は普通ではない。ブラシをかけ、餌をやり、世話をする様子はあたかも母親が息子の世話をするようである。お昼を回った頃、一人の農夫が馬小屋に入って行くのを見た。彼は藁をかき上げ、そこに横になり、寝た。彼の頭は馬の足の上になっていた。しかし、馬は男の頭

に足を乗せることも、ましてや踏みつけて傷つけることもなかった。馬のひずめが取り巻く中で怪我をする恐れがあるかと思うが、農夫と馬の絆は強く、そんなことは起こらないのだ。)

男の頭が馬の脚に乗っているという状況である。眠っている男の頭がどこにあるかということに焦点があてられているので、馬の足の部分であるということが大事になる（あとの記述にもあるように踏まれる危険性があるからである）。従って、馬ということよりも足の方が大事な要素である。

以上、共通する語3つについて談話レベルで比較してきたが、大事な要素が先に来ると仮説を立てておいてよさそうである。

2. 4. 比較：the horse's heels と the heel of the horse

Heal が単数形と複数形という違いがあるが用例を見よう。まず the horse's heels である。

Of course, I was a lot younger and more able to cope in 1947, and I wasn't alone – Father had died by then but there was Mother and Uncle. I had to help Uncle fetch the coal for us and some corn oats for Prince the colt, and a mare which was in foal. We used a sledge with Prince pulling it along. And it was going downhill over the hard packed snow which was the worst bit, with me acting as a brake, hauling on a rope to keep the sledge from running forward into **the horse's heels**. The sheep had the worst time, and not many survived 1947, although provisions for people and animals alike were dropped in by helicopter, and the Army forced a way through on the south side of the dale. (BN6)

(大意：1947年はもちろん僕も随分若かった。今よりももっと動けた。一人で

はなかったし。父は亡くなっていたが母とおじさんがいた。僕はおじさんを手伝った。おじさんは僕たちのために石炭を持ってきてくれて、雄の子馬 Prince と子供を宿した雌馬のために食べ物を持ってきてくれた。Prince はソリを引いてくれた。積もり積もった雪の上を滑って丘を下った。雪は最悪の状態だった。僕はブレーキをかけ、ソリが Prince の踵よりも前に行かないようにロープを引いた。羊にとっても最悪の冬だった。多くが死んでしまった。人間への配給、動物のための配給もヘリコプターで降ろしてもらった。軍は谷の南側へと進んでいった。)

the horse's heels の部分の描写は自分の前には馬がいて自分が乗っているソリを引いているというシーンである。大雪のせいでソリの制御が難しい。ソリが馬と接近しないようにしなければならない。馬の動いている部分、踵の前にソリが行かないようにしなければならない。そのような場面であるから、まずは目の前にある馬を表現し、そして注意を向けている馬の踵を表現したい。従って、horse が先、heels が後という語順が選ばれたのであろう。

では the heel of the horse の例を見よう。

“Now look! If I give you all the horses to shoe off Billingford Hall Farm, will you shoe this horse?”

“Yes,” my grandfather said. “You go and give that in writing to my wife in the house. She can read.”

And he tied the horse up, took the shoes off and put them back on again. Mr Flowerdew said: “That’s easy. Is that all you done?”

“Yes,” and he said to Mr Flowerdew, “Now you pick hold of the hair on **the heel of the horse** and lift the foot up.” (G09)

(大意：「ビリングフォールド・ホール農場の馬全部の蹄鉄外しを頼んだら、こ

の馬に蹄鉄をつけてもらっていい?」「いいよ」祖父は言った。「書いておばあちゃんに見せなさい。家にいるから。字は読める。」祖父は馬をくくりつけ、蹄鉄を外し、また付けた。Flowerdew さんは言った。「簡単だね。それだけ?」「そうだ」祖父は Flowerdew さんに言った。「馬の踵の毛を持ち上げて足を上げて。』)

体毛で隠れている馬の踵を持ち上げて、shoe (蹄鉄) を脱がせてまたつけるという作業について描写されている。体毛をめくってそこに現れるのは踵であるから、馬の一部分に焦点が当てられている。従って、horse よりも heel が先に言語化され、horse の踵であることを示す of the horse は言い添えるような感じで表現がなされている。以上、第1節で分類したカテゴリー1で共通していた coat, figure, foot, heel (s) についてS表現とOF表現を比較検討した。次の節では別のカテゴリーでの共通語について同じように考察を行う。

2. 5. 比較 : the owner of the horse と the horse's owner

カテゴリー6 (馬とかかわる人間) で共通していた owner の例で the owner of the horse と the horse's owner を比較しよう。まず前者の例である。Understanding Horses – Earlier Attempts というタイトルがつけられた文書からのものである。

Bucephalus was a tall, black Arabian stallion with a white star. He had been bred by the Thessalians who were the most renowned horse breeders of those times – their horses being famous over all others for their beauty, courage, speed, and endurance and Bucephalus was one of the best! **The owner of the horse**, realising his value, and that a king would pay a handsome price for him, offered him for sale to King Philip II of Macedonia

for the enormous sum of thirteen golden talents. However, when they went into the field to try him, he was vicious and unmanageable; and reared up when anyone endeavoured to mount him. Eventually the horse was led away as wholly useless and intractable. (ADF)

(大意：Bucephalus はアラビア生まれの雄馬である。育てたのは Thessalians という名の当時最も有名なブリーダーだった。彼の育てる馬は美しさ、勇気、スピード、忍耐力が抜群だという評判だった。Bucephalus はその中でもピカイチだった。Bucephalus のオーナーはその価値を知っていたので王様は高値で買ってくれると思っていた。実際、王様 (マケドニアの Philip 2 世) に 13 金タレントという巨額で持ちかけた。しかし、広場に馬を連れて行き試そうとしたところ、凶暴で手に負えなかった。乗ろうとすると馬は後ろ足で立ち、乗せようとしなかった。結局、役に立たない、扱いにくい、ということで追い出されてしまった。)

談話には Bucephalus という馬、Thessalians というブリーダー、Bucephalus のオーナーと Philip 2 世が登場する。引用部の後半では、人間たちが馬を試そうと広場に出ていくのであるが、馬はいつもの力を発揮することなく暴れ回り使い物にならないと判断されたということが述べられている。馬と、馬を理解できていなかった人間が対比して描かれている。the owner of the horse の文では owner が主語として書かれて、その次の文でも主語 they は人間を指しており、人間を主体として書かれている。その後で主語は馬になっている (暴れる部分と追い出される部分)。人間の思惑と目論見が描かれている部分では owner を始めとする人間の行為を書きたかったのであるから、owner が horse よりも先に書かれたのであろう。

では the horse's owner の例を見よう。Ballynahinch という土地で馬がナイフで殺された事件についての記事である。捜査が行われていることが描写さ

れ、そのあとで馬の所有者 Joe Mahood の証言が書かれている。

THE USPCA today appealed for help in tracking down the “sick pervert” responsible for a knife attack on a horse in Ballynahinch. Superintendent Francis Fox said he was “disgusted” by the latest incident -- the fourth attack on horses in the province this year. “We are very concerned at these incidents and we would appeal to anyone with any information to contact us or the police before an animal is killed.” Police in Downpatrick believe the latest attack happened in the Crabtree area of Ballynahinch sometime between Sunday evening and yesterday afternoon. **The horse’s owner**, Joe Mahood, said he found his horse with several gashes across his legs and stomach. “There was a six inch gash on his back leg and the skin is lying open. Another six inch long wound on his stomach is not as deep, but the area is badly swollen and he has another inch deep wound on his front leg where the knife was stuck in.” (K2N)

(大意：USPCA は今日、バリーナヒンチで起きた、ナイフによる馬殺害事件の犯人追跡に協力して欲しいと要請した。警視 Francis Fox は今年に入って 4 回目になる、今回の犯行に対する嫌悪感をあらわにした。「一連の件に関して重大性を感じており、どんな情報でもいいので通報していただきたい。次の犯行を未然に防ぐためにも。」と。ダウンパトリック警察は 4 回目の犯行はクラブツリー地区で日曜の夕刻から月曜（昨日）の午後の間との見方をしている。馬のオーナーの Joe Mahood は脚から腹部にかけていくつも深い傷があるのを見た。「後脚に 6 インチの切り傷があり、傷口は開いていた。腹部の傷も 6 インチだったが、脚の傷ほどは深くなかった。しかし、ひどく腫れていた。前脚にナイフが突き刺さっており、傷は深かった。）」

事件の概要が語られ、その後で owner の、関係者としての証言が語られる。大事なのは犯人につながる情報がないかということである。つながる情報を求めるために、後半で馬の傷の様子が詳しく述べられている。Owner は大事な要素ではない。従って相対的に重要な horse が先に来たと考えられる。

2. 6. 比較 : the horse's fitness と the fitness of the horse

カテゴリー 7 (馬の健康) で共通していた fitness で the horse's fitness と the fitness of the horse を比較しよう。まずは the horse's fitness の例を見よう。出典ファイル CF9 は競馬の話である。

Another front runner was Cherryhill Beauty, who scored the expected easy win in the Intermediate under Matthew Gingell. The grey is trained by the rider's mother Angela, who attributed **the horse's fitness** to working on "the only hill in Cambridge" on Val Banks's land at Harlton. (CF9)

(大意：もう一頭のフロント・ランナーは Cherryhill Beauty であった。騎手は Matthew Gingell で、中級クラスで楽々優勝だと期待されていた。このアシ毛の馬は騎手の母親 Angela に育てられ、Angela はこの馬の体力はケンブリッジで唯一となる丘で訓練した賜物だと考えていた。)

書き手はまず the grey という言葉で馬を取り上げて話題にし、その調教を担当したのが騎手の母親であったと述べる。談話には馬、騎手、調教師がこの順序で登場しているので、次の話題は馬であることを示すために horse が先に述べられ、その馬の健康状態ということで fitness がその次に言語化されたと考えられる。

次の the fitness of the horse の例は馬の飼育や訓練について書かれたものである。引用部分の前に Stiffness (硬さ) というタイトルが付けられている。

The most common cause of all resistance is stiffness in the back both laterally and directly. This stiffness prevents the horse from bending and bringing his hocks underneath him. As a result, he will be unable to maintain a rhythm during his work or be in balance. The horse finds balance by bringing his hocks underneath him and also uses this means for brakes and acceleration. Any inability to carry the weight on the hind-legs will trigger off resistance in the mouth. This may manifest itself in various ways. A long time must be spent on suppling the horse by the use of circles, turns, changes of bend and transitions. Trotting poles will also help increase the suppleness and activity of the horse. Depending on **the fitness of the horse**, twenty or thirty minutes schooling should be more than enough initially. (ASH)

(大意：抵抗力は背中の中の硬さに起因する。硬いと後ろ足を曲げて踵を自分の下に持っていきることがしにくくなり、リズムを維持しバランスをとることができなくなる。踵を自分の下方に持っていきことでブレーキやアクセルをうまく使いこなしているのだ。体重移動がうまくできないとそれが口に現れる。様々な症状が出てくる。周回、反転、かがみ、動きの切り替えの訓練に時間をかけることが必要だ。ポールを使って速歩の練習をするのも良い。馬の健康状態にもよるが、最初は2,30分の訓練で十二分であろう。)

馬についての記述が続いており、例えば先の例にあったような騎手や調教師などの人間は登場しない。従って、「馬の (horse's)」という表現は必要ではない。the fitness of the horse の直前には様々な訓練についての説明がなされ、その後は訓練の時間について述べられている。健康状態は馬によっていろいろありそれによって訓練時間が違ってくると言いたいのであるから、horse よりも fitness が大事な要素となっている。Of the horse は念のために添えられただ

けである。

2. 7. 比較 : the emotions of the horse と the horse's emotions

カテゴリー 9 (馬が持つ精神的なもの) で共通していた emotions で the emotions of the horse と the horse's emotions を比較しよう。両方とも Understanding Horses というタイトルの著書が出典である。次の引用部分は The Emotional Horse というタイトルがつけられた章の冒頭部分である。

To many people the horse's face seems rather unexpressive, and as a result they are unaware of **the emotions of the horse**. Horses have many emotions, including such extremes as love and hate, depression and elation, boredom and anger, surprise and fear, as well as many milder emotions in between. We need to be able to perceive more than the five emotions above, and it is easy enough to do so. (ADF)

(大意：馬の顔には表情がないように思われるが、それは馬の感情に気づけていないだけである。馬にも多くの感情がある。愛情、憎悪、憂うつ、歓喜、委屈、怒り、驚き、恐怖。これほどまでに強くない感情もある。これらの感情を読み取ることができるようになりたいなら、それは難しいことではない。)

まずは馬についての話題であることを示すため、horse's face と、S 表現が使われている。ここでは horse と言うことが大事な要素である。そして、人は気づきにくい馬は emotion を持っているということが述べられる。The emotion of the horse という表現の後続文脈では emotions について詳しく語られている。従って emotions が大事な要素となっている。

この引用部分の後に the horse's emotion という表現が使われている。その表現が現れるまでの内容を書いておく。馬の emotions を感じ取り、しっかり

理解してあげて、それに応じた対処を人間が行うことが大事である。そう述べられたあとに次の部分がある。

Consequently, the same gesture in horses may indicate different emotions, and it is the context or situation in which the gesture is used that more fully reveals its meaning. Hence, dilating the nostrils may indicate anxiety, but may also indicate great interest in another horse, or, more simply, the nostrils may be dilated so that the horse can smell and learn something more of its environment. In the same way, the ears, which we had been led to believe revealed **the horse's emotions**, are not really good indicators of a horse's feelings on their own. The ears are more like an extension of the eye, pointing where the action is, often flicking forwards, backwards, and even sideways, gathering sounds and information for the horse. (ADF)

(大意：同じしぐさであっても違う感情を表す場合もある。直前に何が起こったか周りの状況はどうであったかを考えると理解できる可能性が広がる。馬の鼻孔が広がった場合は不安、他の馬への興味、単に物を匂って何かを感じ取っているという3通りが考えられる。同じように馬の耳も感情を表すと考えられてきたが、必ずしもそうではない。耳は目が視覚を通じて情報を得ているのと同じように音を頼りに情報を得ているのである。)

the horse's emotions を含む文の前には鼻の動きが書いてあり、the horse's emotions の直前には耳について言及されており、直後には耳についての説明が書かれている。耳は予想に反して emotions をはっきりと表すものではないという論旨である。鼻、耳の動きと働きが書かれたので、鼻、耳というパーツから主体を再度思い起こさせる horse が emotions よりも相対的に大事な要素となる。ここで emotion が先に来ると emotion がパーツの一つのように感じ

られてしまう。

2. 8. 比較 : the mind of the horse と the horse's mind

カテゴリー 9 (馬が持つ精神的なもの) で共通していた mind について比較しよう。まずは the mind of the horse をみよう。次の部分は Podhajsky という人物の著書 *The Complete Training of Horse and Rider in the Principles of Classical Horsemanship* を紹介した文書の第 3 段落である。第 1 段落では騎手はポンポンと叩いたりやさしい声で馬を褒めてあげることが大事であるということ、第 2 段落では馬の正しい罰し方が述べられている。

However, Podhajsky's book is very much concerned with technique, and his few references to understanding **the mind of the horse** -- such as the importance of not hurting or frightening a young horse, and the value of using the horse's herd instinct during its initial training -- are virtually swamped by details of the art of correct riding. (ADF)

(大意 : Podhajsky の本はテクニックに重きが置かれており、馬の心を理解すること (若い馬を傷つけたり怖がらせたりしないことの大切さや、初期訓練の間の群れる本能を用いる価値など) はわずかに触れられているものの、正しい乗り方ばかりの記述のせいで埋もれてしまっている。

Podhajsky の本はテクニック面の説明は多いが、心理を理解するという面が弱いと述べられ、ダッシュで挿入された部分では、馬の気持ちを理解した上で上手に馬を扱う方法が述べられている。従って mind を理解することが大事ということで、mind が大事な要素となっている。

では the horse's mind という表現が現れる箇所を見よう。次の引用部分は上の例の 3 ページほど後にあり、引き続き馬の心理面について書かれている。上

の引用部分とは異なる著者とその著書のタイトルが示され、概要が紹介される。

In 1976, Henry Blake published the first of a number of books that showed that he had studied **the horse's mind** in depth. In his first book, *Talking With Horses*, he even went to the extent of compiling a dictionary of horse vocabulary! Blake noticed that people used more than words when they communicated with each other, and realised that horses did the same. He found that “language, in short, was not a question of sounds only” it was a whole complex of verbal and non-verbal communication, some of it highly individual and dependent on familiarity for its comprehension. Each horse has its own individual language, and the same meaning can be expressed in a number of different ways. (ADF)

(大意：1976年にHenry Blakeは最初の本を出版した。馬の心について深く掘り下げた本である。タイトルは*Talking With Horses*で、馬の使う語彙の辞典とも言えるものとなっている。人間はコミュニケーションをとる際には言葉以外の手段も使っているが、馬も同じだと言うのだ。言語は音で伝わるものだけでなく、言葉によるコミュニケーションと言葉によらないコミュニケーションの複雑結合体で、その一部は個体によって異なり、感じ取ったものに対して親近感が持てるかどうかによるのである。馬一頭一頭がそれぞれの言語を持ち、同じ意味も表現の仕方がそれぞれ異なるのである。)

この引用部分は段落が改まる部分でありHenry Blakeという著者を初めて紹介したところなので、改めて話題は馬であるということを述べるのがmindということを行うことよりも大事になったと考えられる。

3. まとめ

本論考は“the horse's foot”と“the foot of the horse”のような、“名詞's + 名詞(句)”と“名詞(句) of 名詞”の違いを取り扱った(前者をS表現、後者をOF表現と称する)。第1節ではどのような使われ方をしているか分類してフレーズレベルでS表現とOF表現を比較した。その結果、「所有」という意味合いが薄い場合にはS表現は使われにくいということがわかった。第2節ではS表現とOF表現の両方で共通して用いられていた単語を考察対象とし、使われ方の違いを談話レベルで比較した。その結果、談話において相対的に大事な要素が先に来る(例えばfootよりもhorseの方が大事ならば“the horse's foot”が用いられ、horseよりもfootの方が大事ならば“the foot of the horse”が用いられる)ということがわかった。

注

1. BNC (British National Corpus World Edition) は、1億語のイギリス英語の書き言葉(90%)と話し言葉(10%)の品詞標識付きコーパスであり、大半は1990年代のテキストである。なお、コンコーダンス・ソフトはCasualConc Ver. 2.0.3(今尾康裕氏による)を用いた。また、引用例への斜字・太字は筆者によるものである。

主要参考文献

- Deane, Paul (1987) “English Possessives, Topicality, and the Silverstein Hierarchy,” *Proceedings of the Annual Meeting of the Berkeley Linguistic Society* 13, 65-76.
- Hawkins, Roger (1981) “Towards an Account of the Possessive Constructions: *NP's N* and *the N of NP*,” *Journal of Linguistics* 17, 247-269.
- Hayase, Naoko (1993) “Prototypical Meaning vs. Semantic Constraints in the Analysis of English Possessive Genitives,” *English Linguistics* 10, 133-159.
- Hayase, Naoko (1995) “A Cognitive Approach to Possessive Genitives in Derived

- Nominals: With Special Reference to the Phenomenon of Possessor Selection,” *Osaka University Papers in English Linguistics* 2, 1-30.
- Hayase, Naoko (1996) “On the Interaction of Possessive Constructions with Two Types of Abstract Nominalization: A Cognitive Viewpoint,” *English Linguistics* 13, 248-276.
- Hayase, Naoko (1999) “Possessive Constructions: Their Commonalities and Differences,” (Review Article: *Possessives in English* by John Taylor (1996), Clarendon Press, Oxford.) *English Linguistics* 16.2, 514-540.
- 早瀬尚子 (2002a) 「英語所有格表現の諸相: プロトタイプ理論とスキーマ理論の接点」『シリーズ言語科学② 認知言語学 I: 事象構造』西村義樹編, 161-186, 東京大学出版会, 東京.
- 早瀬尚子 (2002b) 『英語構文のカテゴリー形成』勁草書房, 東京.
- Langoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal About the Mind*, University of Chicago Press, Chicago. [ジヨージ・レイコフ (池上嘉彦, 河上誓作ほか訳) (1993) 『認知意味論』紀伊国屋書店, 東京.]
- Langacker, Ronald W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar* Vol. 2, Stanford University Press, Stanford.
- Langacker, Ronald W. (1992) “The Symbolic Nature of Cognitive Grammar: The Meaning of *of* and of *of*-periphrasis,” *Thirty Years of Linguistic Evolution: Studies in Honour of Rene Dirven on the Occasion of his Sixtieth Birthday*, ed. by M. Putz, 483-502, Benjamins, Amsterdam.
- Langacker, Ronald W. (1995) “Possession and Possessive Constructions,” *Language and Cognitive Construal of the World*, ed. by J. Taylor and R. MacLaury, 51-79, Mouton de Gruyter, Berlin.
- Langacker, Ronald W. (1999) “Dynamic Conceptualization,” *Grammar and Conceptualization*, Mouton de Gruyter, Berlin, 361-376.
- Taylor, John R. (1989) “Possessive Genitives in English,” *Linguistics* 27, 663-686.
- Taylor, John R. (1996) *Possessives in English: An Exploration in Cognitive Grammar*, Clarendon Press, Oxford.
- 内田聖二・八木克正・安井 泉 (2016) 『ことばの基礎 1 名詞と代名詞』研究社, 東京.